

連載随想 (1)

やぶにらみ

竹中 郁
え・中西 勝

日本はビンボーだ、ビンボーだ。子供のときから聞かされてきたのが頭の中にしみこんでいる。じっさいにビンボーなのだろうか。

経済学を修めたわけではないし、経済人につきあひするわけでもなし、ただおよそのところ、新聞かラジオの解説で些かおほろげに日本の世界に於ける経済的地位とか、現況とかを知る程度のアタマである。

しかし、町をあるいても田舎を旅しても、ボロ



を引きずって垢だらけの人に出逢うことは滅多にない。あるとすれば、狂人かそれに近い人たちだけで、あとはみな大たい小さいいななりをしてくらしている。明治時代の記憶を引きずり出して比べてみると、大ちがいである。

アタマの中に経済的知識はないが、この目でみる現在は、日本が相当な富有国のような気がして仕方がない。

電車の中で真向いに坐った中年の大工職がある。大工職と判ったのは、傍においてあるリュックま

がいの大きい袋から、鋸の柄が二本、にゆつとはみでいたからである。明治大正時代なら、リュックではなしに手造りの長方形の箱を肩にかついでいた。印伴てんをきて、もも引きをはいていたごつい木綿のものである。今はそうではない。今は毛織のジャムパーにその下は毛糸のスウェーターズボンも毛織といつたいでたちである。頭上には耳まで被う防寒帽である。足もとをみると、こだけが明治と大たい一しよで、メクの紺足袋、タイヤを張った草履である。

しかも、その足袋は真あたらしく、組んだ拍子に足のうらが見えてその白さが目にしみるくらいである。

百貨店へいくと、ヴェトナムのざるやうちわ、デンマークの鍋、ブルガリヤのジャムまである。みんなそんなものは内地でわけなく出来るものでまあ不用不急の物である。ジャムで思いだしたがこのブルガリヤのジャムは大量に輸入してきたとみえて、小豆島の八百屋の棚にもずらりとならんでいた。

豪華な方へいくと、それも不用不急的性格のミラノ製の壁かけ鏡、傘立、食堂ワゴン、枕もと灯台と金色まばゆいくらいである。スコットランド産のひざかけなどときては、山と積んで売っている。

こんなに外国産の物が日本国中に溢れたのは、わたくしの経験では「生れてはじめて」で、第一次欧州大戦のとき、日本が漁夫の利を占めて大金持になったころの浮いた浮いたと比べても、十倍

を上回るような印象をうける。それらの物がいつまでも棚ざらしというのではなくて、みるたびごとに品物が減っているのだ。あきらかに、だれかが買っているのである。

大正時代に、たとえば男物のドレッシングガウンを買いたい、などと思うと、神戸ならレンクロフォード商会（いまの三宮大丸百貨店の南側にあった）へでもいかぬとよそでは売っていなかった。つまり、そんなものはよそではたんと売れなかったというわけだ。それが今では、エガー製でもモーレー製でもあちこちの日本人の洋品店にならんでいる。

わたくしの経済知識をも一つおどろかせたのが先日の英ポンド危機に際して日本が何千万ドルかの貸し主となってサポートを買ってでたことである。

ピンボーヤやピンボーヤと思っていたのに、こともあろうに英国へ金を貸す。いくら落ち目のイギリスでも、明治生れの人間に映るかんじはどうもやっぱり「大英帝国」というスケールに映って見える。そこへ日本がホマチを貸す。ははあん、日本もまあ大金持ではないけれど、フトコロ具合はわるくはないんだナーそんなところで、わたくしは合点した。

日本はピンボーだ。戦争で丸ハダカになった。というような口ぐせは、あれは口ぐせだけのことらしい。

（詩人）

□随 想□

ジェット機で 飲み歩くお酒

鴨居羊子

え・中西 勝

昨年秋、北欧から南欧、北アフリカ、ニューヨーク、メキシコなどへ何となくショッピング旅行にブラリと行った。ところがショッピング旅行は表看板で、実質はお酒旅行ではないかと思うほど北半球から南半球へとお酒ばかりを飲み歩いていったような気がする。

私は体質的にお酒に強いかもしれないけれど、日本酒ではどの酒、ウイスキーはどこそこのどれ、コニャックはあれ、ブランデーならそれ、などというほど味など判りっこない。ただ飲んでるだけである。



ところがこの旅行ではほんとにほんとにお酒がこんなにもうまいものとは知らなかった。どこかのおじ様じゃないけれど北欧はビールがまずうまいほどよい寒さの折、歩きまわって体がやや汗ばみ空気の乾燥とともにのどがカラツとかわき、カフェテラスにほっと一息つくとも必然的にビールがほしくなる。パカでかいシャンペングラスで、真昼間からスイスイとビールを飲むなんて粋なものだネと一人言を言い乍ら飲むその味は、日本のビールほど濃くなくて、淡くてあっさり、ソーダ水のように抵抗なくお腹の中へツと入る。亜麻

色やブロンドの髪の色をなびかせた北欧の娘は、うすい青い目の玉と、何の化粧もしないナチュラルな肌を、フードジャムパーとデニムズボンについで、同じくフードジャムパーの青年に肩をもたせかけ、風のように自然によりそって歩いてゆく。ビールの味は北欧の娘のようにフレッシュユでさわやかだ。

南へくだるにつれて、娘の目の玉の色が濃く澄んでくる。ぶどう酒色かもしれない。南欧は必然的にぶどう酒がおいしいし、私はぶどう酒などあまり飲んだこともないのに自然に欲していた。ニスから香料のメッカ、グラスへ向う途中の田舎道のひなびたレストランで飲んだ村の地酒ヴァン・ローゼは美しい南仏の風物を反映するように甘い色と味をもっていた。

マドリードの立食い屋で桶から木の杓子でついでくれたパンチは田舎くさくっておいしかった。スペインの女の子もそして私も、夕食にジョッキ一杯はそれをたのしんだ。カサブランカでは、シカバブーという料理がうれしくて、ウシクダラをうたいながら、ガバガバとぶどう酒を飲んだら酔っぱらってホテルへ帰ってからお風呂のお湯が部屋中溢れるまで気がつかず、日本のように湿度の多い一夜をすごした。

ぶどう酒にもいろいろあるんだらうけれど、私の味わうぶどう酒はその国その場所そのときの環境で味が違って感じられるだけで、ぶどう酒そのものの味はとやかく判らない。

チュニスではチュニジア人のアラン君やフランス人のミッシェル君などの友達ができて、オリゴリーという踊りをおどってはぶどう酒を飲んだ。

ミッシェル君がシャツをぐいとひろげたとき、ブロンドの胸毛にダビデの星のユダヤのメダイが光っていた。思わず私は手をのばしてメダイと一しょにブロンドの胸毛を撫でてみた。そのあたたかい肉のぬくもりの一瞬のふれあい地球の裏表に住んでいたたちがう国の二人の人間をむすびつけるなんてふしぎな気がしたが、ぶどう酒の酔はチュニスの背をこよなく美しくしてくれた。次の日、しかし、もうミッシェルと別れねばいけなかった。旅の感傷などおかまひなしにジェット機のアリタリア号の爆音は、非情で、荘厳に、私は次の国へと運ばれた。

メキシコでテキーラを手の塩をなめつつ味わってみた。テキーラのドライな味は小気味よく、この旅の終止符をうってくれるようだった。筋向いのテーブルに坐っていたメキシコとスペインの混血青年の端麗な横顔からステキな秋波がおくられてきた。このたくさんの人の中で、言葉も通じないある人間と人間との間に交される誰にも判らない柔かい秋波。テキーラはもう少してその秋波に点火しそうになっていたとき、青年はしずかに立ち上って、やおらふり返ったかと思うと私にだけ判る黙礼をして扉から消えていった。これがラテン系の青年との最後のお別れだった。

旅は物語りが始まりかけたときに終らせてしまふ。私はこみあげてくる涙をふきもせずお酒を飲む悲しいけれど、その悲しさがうれしくて、すべてが美しくうるんで見えるのが旅のお酒である。

(下着デザインナー)



きもの
の
と
細
貨

東京 神戸

	新橋店	東店	西店
	TEL	TEL	TEL
小松	(572)	(571)	(33)
スト	50	08	08
ア	18	66	83
地	50	22	36
階	17	9	6
	(代)		(代)

おんがら屋

世界一！ この風味
洋酒で味う
マロン・グラッセ

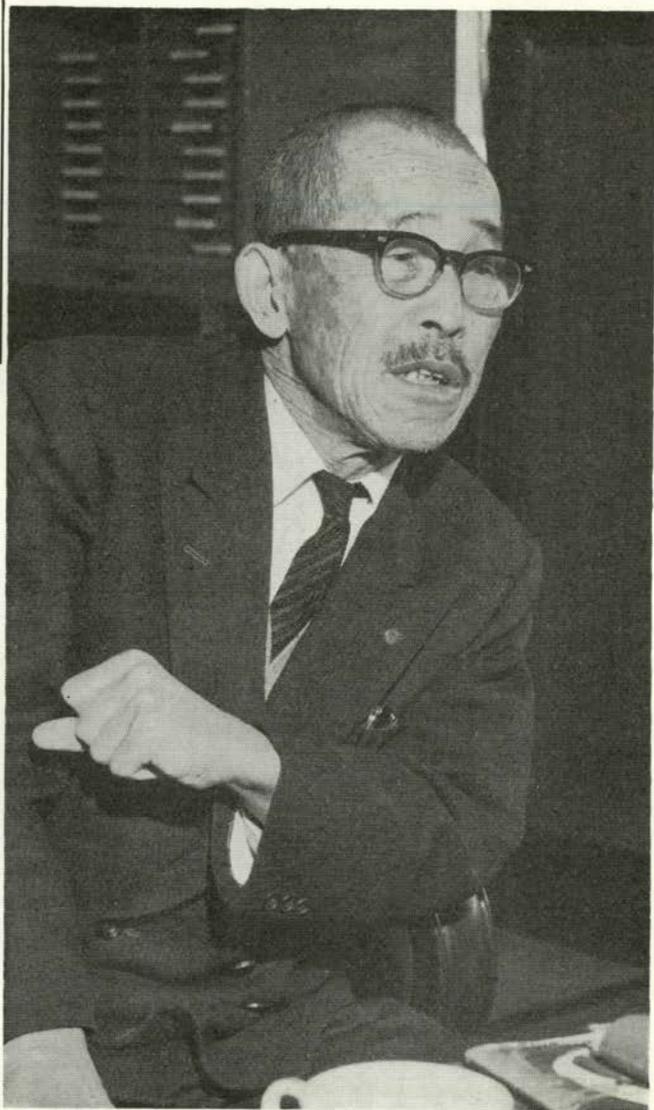


500円
750円
1000円・3000円
スキー・スポーツの友にお特用箱 100円

神戸にそだって 70年

 風月堂

元町3丁目 TEL 392412~5



□ 神戸っ子放談 □

神戸は世界の拠点

雀部昌之介 阪東調帯ゴム株式会社取締役会長・神戸商工会議所副会頭

雀部昌之介氏は、生っ粋の神戸っ子。明治・大正・昭和の3代にわたって、神戸の歩みとともに文字どおり苦楽をともにしてこられた、経済界の長老の一人である。

昨年末、新しく神戸商工会議所副会頭に就任された。77才の高令ながら、神戸の発展のためになお献身しようとしておられる雀部氏の気力は、まだまだ若々しい。

青年時代の思い出から、戦時中の苦闘の跡、神戸の特

色などにわたって、雀部氏の神戸っ子放談は、興味ぶかく、かつ有意義なものであった。

名実ともに神戸っ子

「先ず生いたちからお話ししましょうか。私が生れたのは、明治20年で生家は灘の酒屋（魚崎）なんです。『赤穂屋』というのがその屋号で、みなさんは『あこや』と

呼んでいたようですね。古くから何代も続いた伝統のある造り酒屋でした。生れてすぐに須磨のある家に、里子に出されましたね。もともと里子といっても、お乳を飲ませてもらうためでしたが。なにしろ、その時分はまだ人工栄養なんかのない時代でしたからね。それにしても、昔のことを思うと須磨のあたりは、全然昔の名残りはみられなくなりましたよ。明治の頃は、あの辺一帯は一面の麦畑だったんです。のちに生家の造り酒屋が倒産の憂き目にあい、母親の内職で育てられました。だから、結局私は、生れてから今日にいたるまで須磨と魚崎の間にずっといたということになります。

阪東調帯にはいったのが、明治40年3月で、先代の榎並さんに大へんお世話になりましたね。以来、58年間というものが、会社の所在地である兵庫区明和通2丁目1番地から一歩も動かなかったわけです。これは非常に珍しい例じゃないかと思ってるんですよ。そういうわけですから、私は名実ともに神戸っ子だといってもいいでしょうね」

和田岬にキツネやタヌキが出る!?

「入社当時の思い出ですか。私は、神戸商業学校を出まして、初めて会社へ行った時のことですが、ガス会社の近所に会社があるということだけしか知らなかった。人に明和通2丁目1番地だといっても、誰も知らないんですよ。それでね、会社のまわりは畑ばかりでしたよ。南には運河と海があった。また、事務員がたったの3人だったんです。(笑) 当時は合資会社だったのですが、重役が川西清兵衛さんと滝川辨三さんと先代の榎並充造さんの3人でした。資本金が5万円。それで面白いのは、重役会をやるのに、たんぼのこやし、匂いがブーンと鼻をつく。とうとう滝川さんは閉口してしまって、ここですべて重役会はやれないよと言いだしましたね。(笑) その時分は、和田岬の辺も全くの草原でして、キツネやタヌキが出たくらいでしたよ。(笑) 昼休みに草むらのな

かを探しまわったものです。(笑) だから文字どおり阪東調帯の草分けの時代だったということですね。(爆笑) 現在の神戸からは、ちょっと想像もつかない話です。

神戸港にしても、その頃はメリケン波止場だけしかなかった。小さなランチは出ていたけれども、船は沖にたまっていましたね。なんの施設もなかったわけですからね。それで思い出すのは、大正10年頃だったと思います。仕事で満州へ行くことになりましたね。出発の時のことですが、沖に停泊している汽船の所まで行くのに、小さなランチに乗って、群がる鷗をけりながら行ったものですよ。(笑) 神戸港は、実際自然そのものでしたね」

日本で初めてのゴムベルト製造機をイギリスから輸入——大正2年

「会社が創立されたのは、明治39年ですが、創生時代は相当苦勞したことを憶えていますね。実は、重役の一人である川西さんが日本商業銀行(現在、富士銀行兵庫支店)の重役をしておられました。ところが、その川西さんが要職にある銀行が阪東調帯に金を貸さないんですよ。私は魚崎の家から阪神電車で通勤しておりましたが、魚崎から乗ると、西宮から乗ると同じ料金をとられる。それでわざわざ住吉まで歩いて、そこから乗ったものですよ。それだと御影から乗る料金と同じですみましたからね。

大正2年頃だったと思いますが、日本で初めてのゴムベルトの製造機をイギリスから輸入しました。それ以来、会社の成績も軌道にのるようになりました。少しは自信らしいものが出来てきましたね。もともと、その頃でも資本金は相変わらず5万円でした。

それから、さっきもちょっと触れましたが、後年満州にまいりまして、大連埠頭で初めてコンペヤーベルトというのを見たわけです。それが、私がいわゆる近代的装置なるものをこの目で見た最初の経験ということになりますね」

空襲で工場全滅 だが 廃墟のなから立ち上る

「第二次世界大戦の時のことは、忘れようにも忘れられませんね。」

昭和20年の3月に、神戸が大空襲をうけましたでしょう。あの空襲で、実は工場が全滅してしまっただけです。私はその日、住吉川の土堤に立って、空襲の模様をじっと見ておりました。夜空をこがす火災が、ちょうどネオンのように明るかった。翌日、交通機関はみなストップいたしましたので、魚崎の自宅から兵庫までぶらぶら歩いて行きましたね。最初に芦原の工場に行ったところ、ここが丸焼けでした。それから水木通の工場を見に行っただけですが、ここも全滅。ひとつくらいは大丈夫だろうと思って、明和の工場へ来たなら、なんとも跡かたなしなんです。なんにも残っていない。焼跡に女の従業員がひとり立っていて、泣いていたのを今でも憶えています。しかし、翌日にはもう『直ちに復旧します』という看板を出しました。もっとも復旧なんていつても、モッコをかついであと片づけをするくらいのことでしたが。

しかし、人間なにか幸いするのかわからないもので、空襲で全滅同然になったことは、むしろ痛手にはちがひなかったのですが、それが3月の空襲だったということに、今にして思うと、不幸中の幸いだったということになるんですよ。というのは、こういうことがあったんですよ。ご承知のように、日本のお米は、もみをすらないと食べられないんです。つまり、もみすり機がいるわけなんですけれども、もみすり機はゴムベルトがないと役に立たない。そこで農林省から命令が出まして、東北にゴムが残っているからすぐに仕事を始めよ、というんですね。9月にお米がとれるから、その時期に間に合うようにというわけです。工場は全滅で、なんにもなかったんですが、ゴムや燃料など必要なものはみな政府に供給してもらって、明和通の工場で生産を再開したという次

第です。阪東調帯の復興にとっても、これは大へん幸運だったわけですが、同時に国民を餓死から救うためにも、ずいぶん有益なことでした。つまり、国家の危急存亡の時に私ども会社がお役に立ったということ、これは大へん有難いことでしたよ。」

神戸は世界の拠点として

「中小企業のあり方については、私はこう考えています。今までのような過当なせり合いはやめた方がいいんじゃないか。そして、大企業の果しえない意義と役割を果たすところに、中小企業の新しい生き方があるのではないかと思えます。それに、中小企業は、人間関係の密接さという点に特色があるわけで、それを生かすことによって、効果的に仕事を進めることができるのではないしょうか。」

神戸に対する希望ですか？ そうですね。やはり神戸は歴史的・立地的条件からいって、貿易をつうじて神戸の地域的な特性を生かすべきでしょうね。その意味で、神戸にふさわしい港として、もっと施設の整備と完備を急がなくてはなりません。世界の拠点としての機能を神戸は果していくべきだと思うからです。たとえば、海外の新製品についての情報など、神戸が全国的に分け与えるということもできるでしょう。神戸は新製品の情報を手に入れたり、新製品を創造するのに非常に便利な所、お会いするお客さんから卓抜なアイデアが出されることもあって、これは神戸ならではといえましょう。神戸人らしい感覚というものは、決して一朝一夕にでき上がったものではないのですよ。

最後にひとこと。若い頃は、金もうけが心の唯一の支えでしたが、今はむしろ、人間としての使命感みたいなものに支えられて今後も頑張りたいと思っています。」

(文責・編集部)

経済ボケツト ジャーナル



イギリスの海運担当相が
三菱重工神戸造船所を視察

日本の造船界を視察するため一月十日に来日した英国のロイ・メイソン国務相(海運造船担当)が一月十四日、三菱重工神戸造船所を訪問した。海洋国イギリスの海運担当相だけに、世界の最先端を行く日本の造船施設を見ても驚かなかつたが、さすがに鋭い観察眼と批評ぶりが目についた。

同大臣は東京で松浦運輸相と会談したさいに、「日本では十五万重量トンクラスの建造能力を持っている造船所の建設を急いでいるが、これは世界の造船界に大きな影響を及ぼすものである。日本の造船界としても船腹過剰ということになる危険がある。」と指摘した。これに対して松浦運輸相は「日本は海運収支の改善のために船腹補充が必要だ」と答えたが、確かに造船界の問題点を指摘したといえよう。

二月に宇佐美日銀総裁
神戸で懇談

三十九年度は日本経済が国際経済の中で大きな試練を受けたが、四十年の見通しもまだあまり明るはいとはいえないようだ。しかし佐藤首相が新春の記者会見で「あと半年しんほうしても「いたい」といったり、公定歩合引き下げなどがあったりやや明るさが増した感じ。」

また日銀総裁に宇佐美三菱銀行頭取(元全銀協会長)が就任したこともひとつの明るい材料とみられている。宇佐美氏は昨年神戸の経済界を視察したこともあり、全国の経済界の実情にもくわしい。二月初めに神戸を訪れ、各界代表と日銀総裁として初めて懇談することになって、山際前総裁は神戸については比較的高く評価していただけに、宇佐美新総裁も国際港神戸の實力をじゅうぶん評価してもらいたいという意見が各方面に多い。

浅田構想で動く
神戸商工会議所

浅田会頭を先頭にハッスルしている神戸商工会議所は四十年を迎えて、神戸の大きなビジョンを描こうという訳で企画委員会および神戸港整備、水資源開発の二特別委員会を設置した。企画委員会と両特別委は浅田会頭の五本の柱を実現するため設置したもので、その成果が期待されている。

企画委員長に就任したのは神戸経済同友会代表幹事で鳴らした日本香料薬品社長の小野一夫氏。小野委員長は「神戸は大阪と瀬戸内海を結ぶ接点だ。両地区が密接に結びつかねば本場の発展はむずかしい。いわゆる瀬戸内海経済圏には求心力と遠心力が働いており、南北問題と東西問題とがある。これらを解決するには各地の商工会議所と密接な協力が必要である。また浅田会頭も提唱しているように、水は日本海側から阪

神地区に持ってくるよう考えるべきだ。とにかく二十年先の計画を打ち出す必要がある」と強調。同委員会でまず神戸地区の産業構造再編成などの問題と取り組むこととしている。

また、兵庫県商工会議所連合会(会頭浅田長平氏)の初めての会頭会議が一月十三日、オリエンタルホテルで開かれた。会頭会議は初めてで、浅田会頭の盛んな意気込みが感じられる。この会頭会議には尼崎、姫路、明石、加古川など県下十五商工会議所の会頭、副会頭、専務など多数が出席、兵庫県の開発問題を経済界の立場から検討した。同日の会議では浅田会頭が「兵庫県の開発、発展にとって経済界の果たすべき役目は非常に重大である。経済界は内外とも多事多難であり、経済界の一致協力が必要である」と力強く協力がいさつ、今後、各商工会議所間の連絡を密接にし、積極的に協力し合うことにな

* KOBE オフィスレディ *



与那覇和枝さん(20才)
オリエンタル・ホテル
宴会部宴会課勤務
昭和37年に沖縄から日本に来て、神戸
女子短大を昨年卒業し入社後9カ月。
一日も早く英語をマスターしてお客さ
んの役に立ちたい。と今ではすっかり
神戸っ子。神戸を離れたくないという
明るいお嬢さんである。

オリエンタルホテル・ア・ラ・カルト(その8)

アベックで愉しめるバー

オリエンタルホテルには十一階に世界各国の名物料理をたべさせるスカイレストラン、一階には泊り客に朝食をたべさせる定食堂があり、アッパラーウンジには茶席があつて、抹茶や紅茶、ビールなどの飲みもの一切のサービスをし



・地階の瀟洒なバー・マーメイド

ている。

地階にはグリル・プルニエがあつて、とっておきの神戸肉と瀬戸内海のいきのいい鮮魚の料理をたべさせ、秋から冬にかけては赤い襪にあねさんかむりの志摩の乙女が的矢カキをその場で割っており

外人客の人気をあつめている。パリジのごちそうパリのよせ鍋とでもいいたいブイヤベールの注文も昨今ぐつとふえている。

その前にコーヒシヨップがあつて軽食と飲みもの一切を用意している。オリエンタルホテルには、こんなに館内にそれぞれ特徴のある食堂があつて、阪神間で第一等の味覚の殿堂をつくりあげている。

この際とくに紹介しておきたいのはホテルのいちばん高い十一階と、いちばん低い地階に二つのバーがあ

ることである。十一階スカイレストランのバーはすばらしい見晴らしで、特にここからみる市街や港の夜景は、宝石袋をぶちあげたほどの美しさである。

お客は邦人と外人が半分づつだが、外人の場合、食前酒として軽くオールドファッションやオンザロックをやるひとが多い。また「日本に来て、のんきにやります」といった雰囲気をだそうと、ちびりちびりやりながら、カウンタにもたれて国際電話で、パリやニューヨークの奥さんや愛人と話している西洋人がいるが、とてもほほえましい情景である。

楽園のように楽しい雰囲気のために飲むカクテルも、ピンク・レディとかグリーン・フォックスのような色合いのきれいなものが多く日曜をのぞいては毎日音楽があつて中央に円型舞踊場がある。十一階にくらべると地階のバー・マーメイドはもっぱら愛飲家向で、百八十種類の洋酒を用意し、正面の棚には百種類二百本の酒瓶がずらりとならび、ワインだけでも六十種類からあり、ニューヨークのバーをのぞいては、他のどこの都市でも見られない壮観さだということだ。そのうえ火、木、土にはピアノ演奏がある。近ごろの傾向として若いアベック客が多い。

●昭和四十年 度

神戸酒徒番附 座談会

惜しまれる

嘉納治兵衛、歌丸さんの逝去

——前に「神戸っ子」誌上で第一回の神戸酒徒番附を作製したわけですが（昭和38・7）、その後だいぶ状況も変わりましたので、この辺で番附を再編成したいと思えます。

D 嘉納治兵衛さんが亡くなられましたね。横綱がいなくなりました。
B 嘉納さんに代る横綱となるとちょっとむずかしいよ。花隈の歌丸も亡くなったですな。
E ご両人とも大へん惜しい人でしたね。でも、ともかくざっと名前だけでも挙げていこうよ。



直木太一郎氏

- B 嘉納正治さん、いれたらどうですか。
A そうですね。あんまり量は飲まんが。
B それでも好きでしょう。あの人はね、酒飲んだら必ずいっぺんは寝るんだよ、座ったままで。（笑）電車の中でも立ったまま寝る。いい酒ですよ。
A 安倍正夫さんも強いな。他には砂野仁さんが、前は勝負検査役だったけど、現役復帰ですね。
B 田村亨さんは？
C 小林芳夫さんは酒席を楽しむ方だな。
B 西脇親さんがぐっと上位にくる。一人で飲んでいるね。
C 静かに飲んでますね。
B 自分のペースをちゃんと決めてね、絶対崩さない。
A クラブ阿以子のあい子もよう飲みますよ。
B ああ、いつもべろんべろんですよ。（笑）
A 古林喜楽さんがいる。でも、

- 嘉納さんの後継者としてはどうか。
B 喜楽さんは文化人関係の方にいたほうがいいんじゃないか。最近の酒豪としては、東京海上の支店長。
A ああ、古田中さんね。
B 大したもんです。
A だけど、横綱というわけにはいかないな。
B 郵船の小野泰信も新顔として入ってくるね。若林与左衛門さんはどうでしょう。
A 量は多い。この人は体じゅう酒みたいなものでね。（笑）
酒量だけではだめ
酒品と現在の活躍ぶりも重要
B 百崎辰雄さんはだめですか。
A いや、あの人は芸がいんだ量だけでは決められないからね。
B 量と酒品、現在の活躍ぶりを考慮にいれて……
B 酔った上での芸も考えるわけですね。いわゆる座持ち。

□審査員

及川 英雄（作家）

直木太一郎（神港倉庫社長）

竹田洋太郎（神戸新聞論説委員）

田中健一郎（甲南汽船社長）

青木 重雄（神戸新聞記者）

□呼出し

小泉 康夫（月刊神戸っ子）



田中健一郎氏

- A 回数もある。沖豊治さんがはいるな。乱れない人です。西山弥太郎さんは、前は飲んだけど、今はあまり飲みませんね。
- B 玉井操さんが全然飲まない。船の方でよく飲むのは、乾豊彦。
- A 甲斐勝郎は飲まんですか。
- B あれは飲みます。酒が好きです。
- D 文学青年でね。
- B 中堅どころでは、島谷文雄がいる。毎晩飲んでるね。
- A 敢斗シブッだ。(笑)
- B 菅谷寛一も飲む。宮地襲二さんは相変らず飲んでるけど、量が落ちたな。
- A 榎並正一、小野一夫もはいる
- 東方(経済界)新横綱に砂野仁氏 満場一致で推挙
- A 横綱を決めましょう。砂野さん、いいと思うな。酔うとすぐ歌謡曲が出る。
- B 王将とかね。(笑)
- A いい酒だけど、ちょっと悲憤慷慨するところがあってね。
- C 号令かけてるみたいで。(笑)
- C 古武士的風格というか旧制高校的というか。
- B 風格があるな。たしかに横綱としておかしくない。量だけなら上の人がいるかもしれないけど、経済界では砂野さん以外ないでしょう。

- いでしよう。
- B 総合点からいって、砂野さんが横綱。
- B 安倍さんも風格のある人だな。英国式のジェントルマン。
- C 姿勢がよろしい。
- A 女性はどうでしょう。
- B 知らんな。
- B 長駒が飲むな。
- D 吉田美津枝はいきますよ。これはうるさい。(笑) 園井のぼるもごっついな。
- C とてつもないおばさんですわ(笑) 僕がビールを飲むのと同じコップで酒を飲んでまわるんやからね。
- A 沖豊治さんは三役だな。香西精さんも飲む。この頃ちょっと弱くなったけど、酒を愛してるね。
- C 有賀博さんは豪快に飲む。
- A 滝川勝二さんも強い。
- B 小林芳夫さん、百崎さんのようなムード派のけましようや。
- A 医者では森村茂樹がいるな。
- D 強い強い。ハシゴ酒でね。パ
- D 専門です。
- B 日銀支店長の広瀬久重さん。量はそれほどでもないが、よう行ってますな。
- A 船岡鉄司も入れよう。勧銀の前の支店長です。
- B 張出横綱をそろそろ決めるとして、誰がいいかな。西脇親さんどうでしょう。
- A 異存なしですね。大関が安倍正夫さん。
- B いいところでね。
- A 若林さんが張出大関にくる。
- B 正岡脇が榎並正一さんだ。
- D 吉田美津枝が女性代表で張出大関といきましょう。
- A 小島あいが関脇クラスだ。



竹田洋太郎氏

- B お客さんの相手で飲むのとちがって自分の方から飲みたがる。宮地さんが小結だね。芸人やからね。
- A 滝川さんが小結で、宮地さん小野さんが張出小結ということにしたらどうか。
- B いいでしょう。乾さんは血圧が高くて量を落してるから、前頭筆頭がいいな。
- D 西方(文化界)横綱に朝比奈隆 張出横綱は古林喜楽
- C 文化人関係は、相当変更する必要があるな。
- D 不良少年のほうですな。(笑)
- C 吉沢独陽さんは落とそうよ。休場力士やな。(笑) 山本大慈もだめだ。
- A 前回の横綱が休場とはひどいもんだね。(笑)
- B 朝比奈隆さんなんか、ずっと上にくるんじゃないですか。
- C 横綱級ですね。この人は乱れない。
- D 石上玄一郎が、作家では上位にくるね。
- E 石上はむしろ大阪だな。
- D 画家では、奥村隼人は酒量はトップです。しかし、あれは傍で飲まれると迷惑する酒でね。(笑) これも引退や。
- C 酒品がいいのは津高和一だ。

それに家で人に飲ますからいいよ
D 酒を飲んだる恰好のええのは
中西勝やな。本当に酒を愛してい
るとい感じだ。

C 大関ですね。量よりも飲んだ
る恰好でね。

D 傍若無人のふるまいで。

C 神戸大学の加藤一郎。これは
大物ですよ。

E いや、今はだめなんだよ。体
を悪くしてね。ドクターストップ
です。健康なら当然三役入りだけ
どね。

C 喜楽山人は、やっぱり横綱で
しょう。大関には朝比奈さんです
な。



及川英雄氏

A いや、横綱に近いな。

B 横綱におくべきでしょう。小
磯良平さんは飲まんでしょう。

D 全然だめですな。富田碎花、
竹中郁なんていうのは、からきし
だめです。

C では、朝比奈さんが新横綱と
いうことですね。古林さんが張出
横綱になりますね。

E 新谷秀雄が上にくるね。
松岡の寛ちゃんはどうか
木下繁のほうがかもしれんな。

久本弘一も上位だね。カッポレ踊
ったりしてね。なかなかいいよ。

C 赤根和生が強い。三役入りし
てもいいな。鴨居玲もいいね。作
家では陳舜臣は大物ですよ。

D これはごっつい。全国の文壇
酒徒番附のつたくらいだから。

A 小さい体ながら……

D あの小さい体のどこに入るの
かと思うよ。(笑)

C 学界では関学の田中国夫さん
がいる。それから大阪市大の岸本
通夫さん。

D あの人は飲むな。新聞関係で
は畑専一郎が現役に残るな。

C 丸本耕はどうやる?

A 田中国夫さんというのは愉快
な人ですよ。

D あれは入れとかないかんね。

C 詩人では正木利雄がいる。

D 伊勢田史郎とかね。

A 五十嵐播水さんはどうなんで
す?

D 飲みませんね。

C 佐藤得郎は一種の酒仙ですな
おつきあいはしない人だけど。西
村雅司もい。

D 医者 of 佐藤静馬。中野理もは
いる。「へその手帖」を書いた。

C ちよっと一人勝手のところも
あるがな。

D 愉快な酒ですよ。これと荒尾
親成にかかったら賑やかすぎて困
るくらいだ。貝原六一、江田誠郎
もいけるね。

E 足立巻一も落とせないね。

C この辺で整理しよう。あつ。

C 忘れとった。八代斌助さんがいる
これは絶対おとせない。日本聖公
会総裁です。これは大人物です。
そこで津高一、陳舜臣が張出大
関でどうですか。

D いいね。あとは正関脇が畑さ
んだ。八代さんちよっとさしざ
わりがあるから、別格としましよ
う。

E 阪本勝を忘れてはいけな

ね。張出関脇にすえたいな。もう
一人張出関脇がいるんだが、足立
さんでどうでしょう。昨年はいい
仕事をしたんだしね。

C 園井のぼるが西方にはいると
して、小結でしょう。久本弘一と
鴨居玲は、どっちを張出小結にす
るか。

D 年令からいって久本を上にし
たい。

C 酒飲みらしい人だね。目をし
よぼしよぼさせてね。鴨居玲は、
負傷にもめげずにがんばったから
敢斗賞だ。(笑)

D 陳舜臣は殊勲賞。全国の番附
にもつたんだから。(笑) 海外
旅行で、洋酒をたくさん飲んでき
た新谷秀雄が技能賞だ。(笑)

A 東方ではどうなるかな、三賞
の行方は。

B 殊勲賞は末正久左衛門。宮地
襲二が敢斗賞でしょう。実際、敢
斗しますよ。サーピスこれつとめ
るからね。(笑)

A 古田中さんが技能賞になるか
な。酒が好きで好きでたまらん人
ですよ。



青木重雄氏

———どうも長時間ありがとうございました。

(於 竹葉亭)

日本一の酒どころ

灘五郷には

ながい年輪がある

伝統のなかで生れる

灘の生一本

そこに

香り高い気品

すつきりした風味と

コクが生きている

櫻正宗

黒松
白鹿

多聞

日本盛

大関

白雪

清酒なら

灘の生一本

五西会

山中與幽人對酌

李白

兩人對酌山花開

一杯一杯又一杯

我醉欲眠君且去

明朝有意抱琴來

山
中
に
て
幽
人
と
對
酌
し

兩
人
對
酌
す
れ
ば
山
花

一
杯
一
杯
又
一
杯

我
は
酔
う
て
眠
ら
ん
と
欲

す
君
は
し
ば
ら
く
去
れ
明
朝
意
有
ら
ば
琴
を
抱
い
て
來
た
れ

金盃

澤之鶴

富久娘

忠勇

菊正宗

白鶴

清酒なら

一本の生灘

五西会

映画のことと手当り次第 (13) 淀川長治

市川崑さんと和田夏十さんと私が、どちらからともなく「耳無抱一」のことを話し合って、これを映画化したい、するといいい、やるなら渋いカラアードがいい、そのカラアードは灰色にうすい赤がはいるくらいがいいなどと話して、十日もたたぬうちに小林正樹プランでこの映画化が発表された。互いにびっくりして、夏十さんはそのあと逢ったとき冗談半分に私を睨んだが、ゆめ私の知るところではない。ハーンの「怪談」の中でもあれは傑作で誰だって映画作家は一度はやってみたかろう。ところで正樹「怪談」は第一部の「黒髪」が上出来で問題の「抱一」はこってしあんたがわすの御苦勞作であった。私はハーンの「怪談」では「抱一」と併せて「お貞のはなし」が昔から好きだった。子供のような若い十五妻が十九の良人と夫婦になってまもなく死んだ。妻はも一度生れかわってあなたの妻になりたいと言いのこした。それから何年もたち男はまたも妻を持ちも作ったが、みんな早や死にした。ひとり者になった男がつけづれの旅の宿でふとみた女中が昔の妻そっくり、びっくりした男が名をきくとあの昔の妻の声を言って気が失った。男はこの若い娘と結婚したが、その若妻はまったく自分が何を言っても気が失ったのかぜんぜん知らなかった。これはねばると映画になると思う。

昨今の日本映画は不作で洋画に圧倒された。その洋画ことしもツブがいい。ところで「トブカピ」を見てジュールス・ダッシン監督に感心し、ならぬ泥棒するがダッシンと手を打った。これを見てみると「ジゴマ」が頭に

浮かんだ。その題名のニュアンスからであろう。昔またアメリカ映画が芽を出さぬころ、連続映画はフランスとデンマーク。そのフランスの「ジゴマ」(ほんとはズイゴマル)や「プロテア」を思い出した。「ジゴマ」は両親に別府温泉につれられそのあき地のテント小舎の活動写真場で見たのだが、もちろん大正初期。本当の封切は明治四十四年。「ジゴマ」は一九一一年作だから日本はいち早く同年輸入公開したわけになる。この怪盗ジゴマが探偵を殺すため登山電車に爆弾を仕込み、危機一発で探偵が飛び下りた瞬間爆発したり、また探偵が湖水をモーター・ボートで走っているとジゴマが飛行機でこれを追い急降下して爆弾を投げ、モーター・ボートはてんぷく、探偵は水中にもぐり、やっと遊覧船に救われる……いまから五十四年前すでに「リオの男」やヒッチコックの種はあったのである。

アメリカ映画ことしの話題は、ニューヨーク派作家作品公開のことであろう。これは今から十二年まえにモリス・エンゲルという写真家が「小さな逃亡者」というのを一人で手製で作って評判になった。五つくらいの子がオモチャのピストルで年上の男の子を射た。すると相手は上手に苦しんで死んだまねをした。子供はびっくり本当に殺ろしたと思ひ、家出して電車にまぎれこんで乗りこんで、終点で人と一緒にまぎれこんで下りて歩るいて行くと、そこがコニー・アイランドで、大喜ろこびで何もかも忘れて遊びまわり、夜になって人がみんな帰らしたとき、またも殺人を思い出し、向うからくるお

巡りを見てあわててベンチの下にかくれ、朝まで寝てしまう。この作品がきっかけでニューヨーク派が生れ、ライヴエテ・ロゴシンの短篇「パワリイ二五時」、ジョン・カサオネルスの「アメリカの影」、シャーリー・クラーク女史の「クール・ワールド」などがこんど日本でも公開される。

「パワリイ二五時」はマンハッタンのウォール街とチヤイナ・タウンに近いどや街。私もここを車の中から見物したが、質屋といれずみ屋と安酒場とミッシュン(しもたやのような伝道場)がならび、昼ひなか酔っぱらいが道に寝ていた。これをイタリアの残酷シリーズとはまた違った覗き見でない撮り方をしていてパワリイの生活と人を詩にしようとしているのが面白い。「アメリカの影」は少し白に近い黒の美人の悲劇であるが、この映画の感覚はすばらしい。黒の世界がどんな悲しいかと言ったことを手でさかなでされる。「クール・ワールド」は黒のピート。舞台もマンハッタンのハアレムでここは見渡す限り黒一色。私は芝居がえり地下鉄の線一つまちがって夜十

一時五〇分ここに出てびっくりしたことがある。そのハアレムの黒人非行少年をカメラが追う。

もう一本ラリー・ピアースという親しい監督の「わかれ道」というのが、これも公開近い。子持ちの白人女が黒と結婚し平和に暮らし二人の間に子供が生れる。そこへ女の前の亭主がさがしだして現われて、もう六歳くらいになっている自分の子供を連れ出してゆく話。白と白の間に生まれた女の子を白の父が連れ戻しにくる。その子はすっかり黒のパパになつき、その黒い亭主が実にいい紳士。いまその白い母がその白い子を前の亭主から無理にひきとめ得ないこの映画の幕切れが見えていてつらい。白の子はとめてもくれぬ母を腕み平手で母を殴りつけた。殴られた母が歯をくいしばり前の亭主に娘を渡してしまう。そのさまを見つめて手も出ない黒い亭主。どうしてアメリカが黒をこうも嫌うのかそのトゲが胸を刺す。

(映画評論家)



—「わかれ道」より—